



19大豊建第60号  
平成19年5月2日

国土交通省道路局長 宮田 年耕 様

高知県大豊町長 岩崎 憲郎



中期的な計画の作成に係る意見の提出について（回答）

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありましたうえのことについて、下記のとおり回答いたします。

記

1 地域が機能する道路網の整備

道路網の機能は、人間の体と同じように毛細血管まで血が通って初めて、全体として機能するものである。手の指や足の指に当たる地域であっても、大動脈はいらぬが、その機能にあった大きさの血管が必要である。

重点化、効率化を進める上でも、幹線道路と同じように幹線に連結する地方道の道路整備が進まない限り、地域住民の安全で安心な生活は確保されない。

以上から、次の二点が必要である。

- 道路特定財源（国・地方）の堅持
- 整備、維持修繕事業の地方負担軽減

2 国土（森林）整備による永続的な道路機能の保全

中山間地域の道路においては、開設、改良などの直接的な施設整備と並行して、長期的維持管理、あるいは国土（森林）保全の観点から、道路に接する森林の整備を道路網の維持管理事業として実施する必要がある。

具体的には、国道に接する森林について、上方数百メートル幅で間伐を実施することにより、環境、経済両面について機能、価値の高い森とすることによって、災害等に強い森林で道路網を守る。

3 国道439号京柱トンネルの早期完成

国道439号高知、徳島県境の京柱峠は、標高1,000メートルを超え、冬季積雪のため数か月間通行止めとなるなど、未改良のため沿線住民はもちろぬこと、交流、流通の面において利用者は非常な不便を強いられている。また、沿線地域にとって唯一の資源であり、この利活用以外に地域存続の手だてをもたぬ森林資源活用による林業林産業の振興を図る上で欠くことのできぬ生命線である。

具体には、平成21年に国の新生産システム導入による大規模製材所の大豊IC周辺への立地が決定し、沿線森林資源の活用による地域振興、森林整備による地球温暖化対策の推進など、地域にとって緊急かつ重大な課題克服の要となる京柱トンネルの権限代行による早期完成が必要である。